

DVに関するアンケート調査結果報告について

生活子ども課男女共同参画室

I 調査概要

1. 調査の目的

令和5年度における「ぐんまDV対策推進計画（第5次）」の策定や、今後の施策立案の参考資料とするため、DVに関する県民の意識、実態、要望等を調査し、課題や県民ニーズを把握する。

2. 調査項目

(1) DVに関するアンケート調査

- ①性別 ②年齢 ③住んでいる市町村 ④DV加害・被害の有無 ⑤相談先
- ⑥相談しない理由 ⑦相談窓口の認定度

(2) デートDVに関するアンケート調査

- ①性別 ②年齢 ③デートDVを知っていたか ④デートDVについて理解できたか
- ⑤交際経験 ⑥デートDVの経験 ⑦どのようなデートDVを受けたか
- ⑧どのようなデートDVをしていたか ⑨相談先 ⑩相談しない理由

3. 調査設計

	(1)DVに関するアンケート調査	(2)デートDVに対するアンケート調査
① 調査対象	県民	県が実施するデートDV防止啓発講座の受講者（高校生、大学生※）
② 回答人数	1,788人	594人（6校）
③ 調査方法	Formsを利用	受講者へアンケート配布・回収
④ 調査期間	令和5年1月～2月	令和4年4月～令和5年1月

※「大学生」には専門学校生を含む

本書の見方

- ・回答比率（％）は、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位までを表示しているため、表示された回答比率の合計が100.0％にならない場合があります。
- ・グラフに表記される「n＝※」（※は数字）は、該当質問の回答者数を表します。
- ・グラフにおいて、選択肢の文章が長い場合は簡略化して表示しているため、調査票の文章とは一致しない場合があります。
- ・グラフは、質問によって全体結果のみを示したものと男女別の結果を示したものがあります。

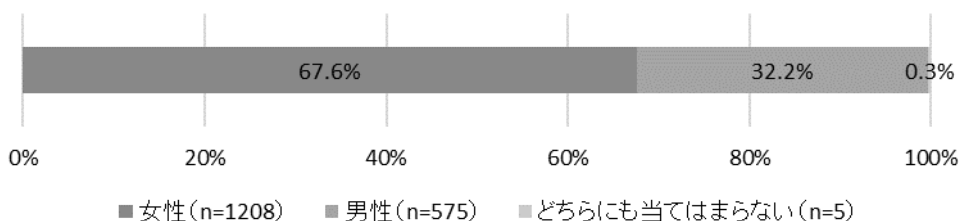
Ⅱ 調査結果の概要

1 DVに関するアンケート調査

1. 回答者の属性

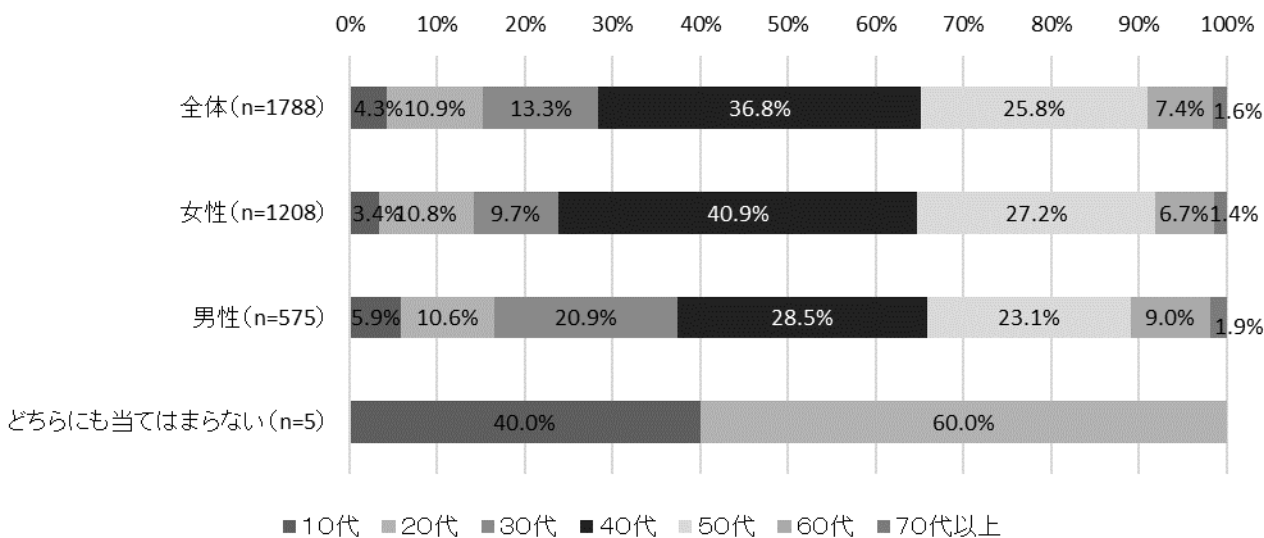
(1) 性別

- 性別は、女性 1,208 人 (67.6%)、男性 575 人 (32.2%)、どちらにも当てはまらない 5 人 (0.3%) となっています。



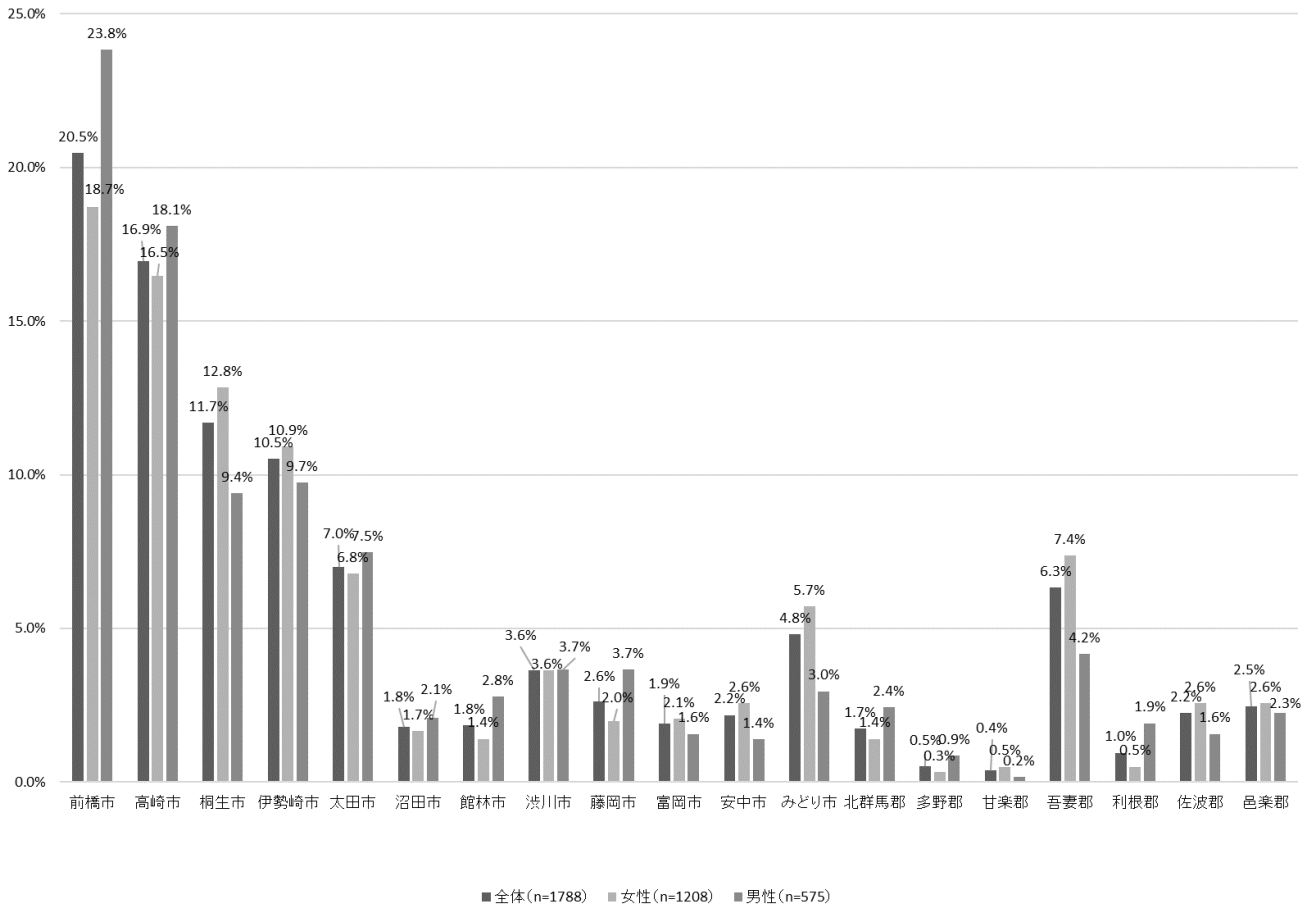
(2) 年代

- 女性は 40 代 (40.9%) が最も多く、次いで 50 代 (27.2%) が多くなっています。
男性も 40 代 (23.1%) が最も多く、次いで 50 代 (23.1%) が多くなっています。



(3) 居住市町村

●女性も男性も前橋市が最も多く（女性 18.7%、男性 23.8%）が最も多く、次いで高崎市（女性 16.5%、男性 18.1%）が多くなっています。

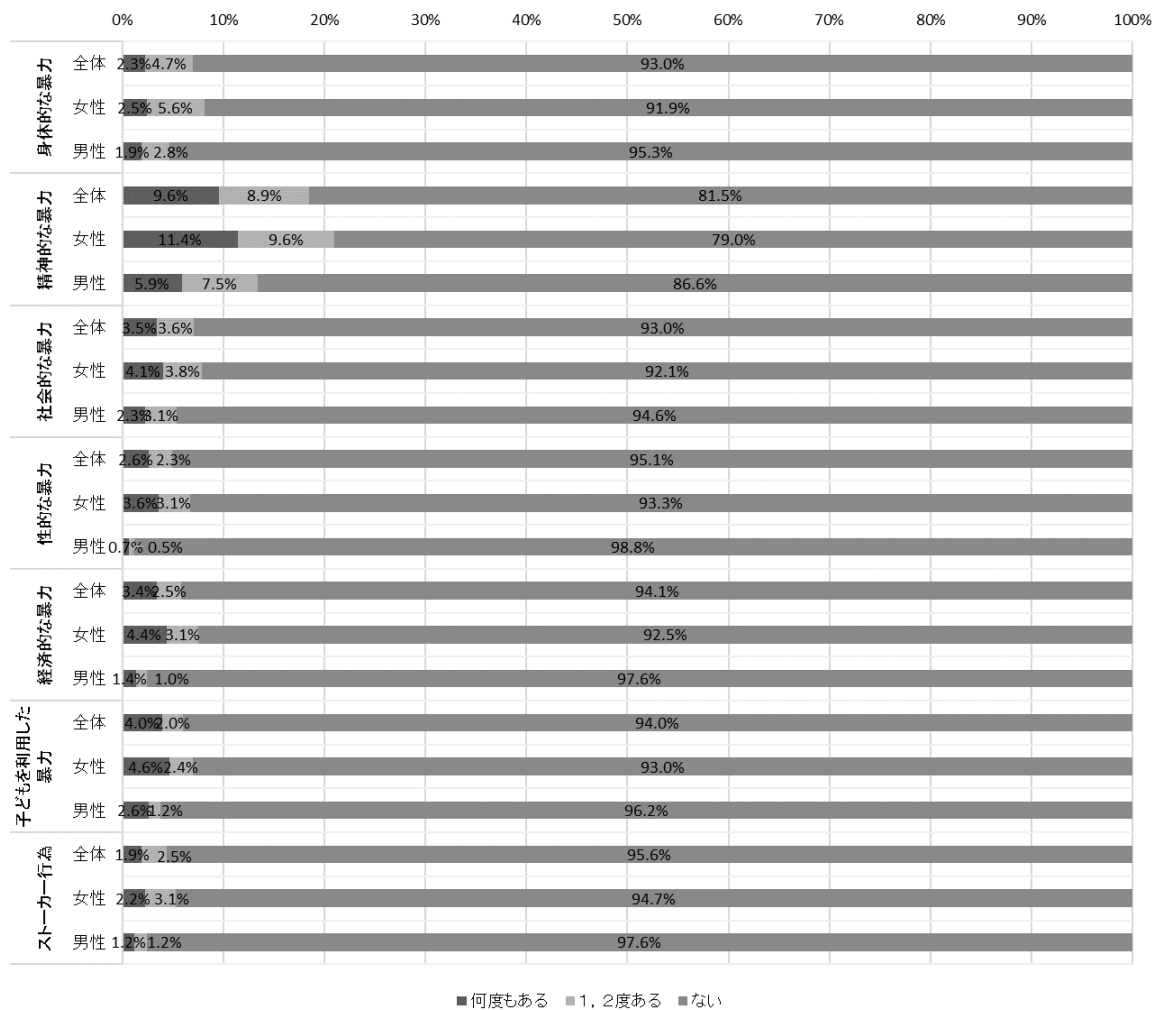


2. 調査結果について

DV 被害経験（問 4）

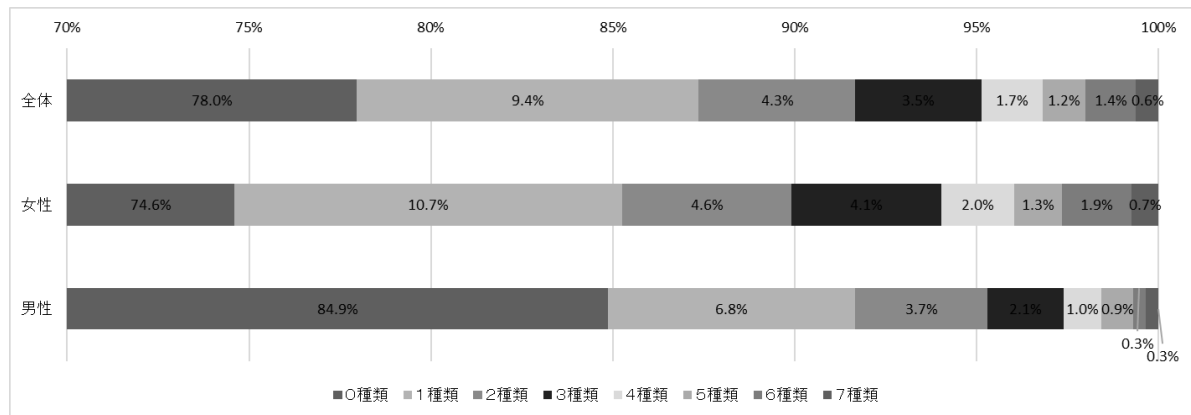
●DV被害経験について、すべての項目で「ない」がほとんどとなっていますが、その中で「精神的な暴力」が「ある」（「何度もある」「1,2度ある」の合計（以下同じ））が最も高くなっています。

●また、被害経験が「ある」と回答した割合についてすべての項目で女性が男性を上回りました。



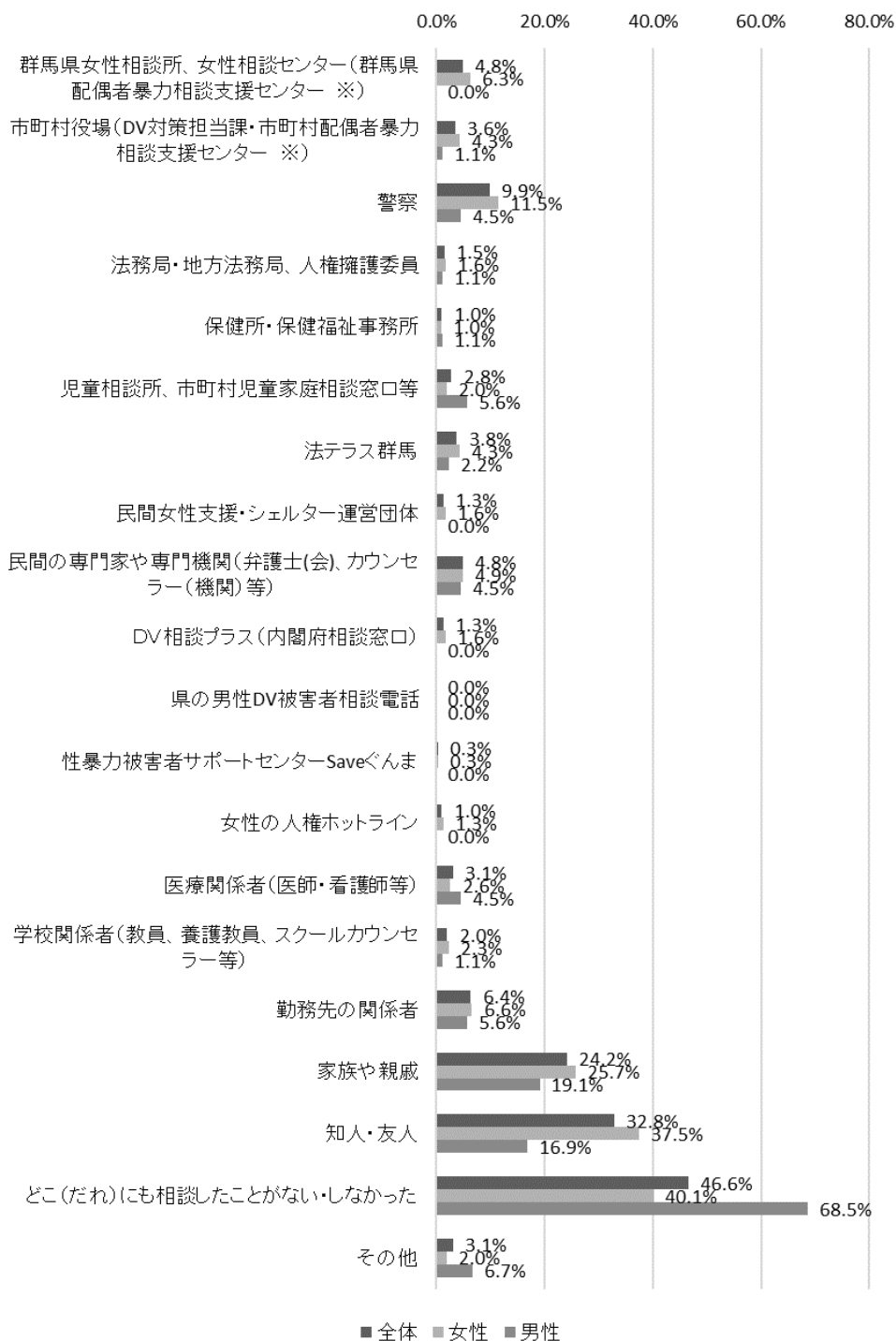
●被害経験について、女性は74.6%が被害を受けたことがない（0種類）であった。被害経験のある25.4%のうち、被害経験種類数は「1種類」が最も多く、10.7%であった。

●男性は、84.9%が被害を受けたことがない（0種類）であった。被害経験のある15.1%のうち、被害経験種類数は「1種類」が最も多く、6.8%であった。



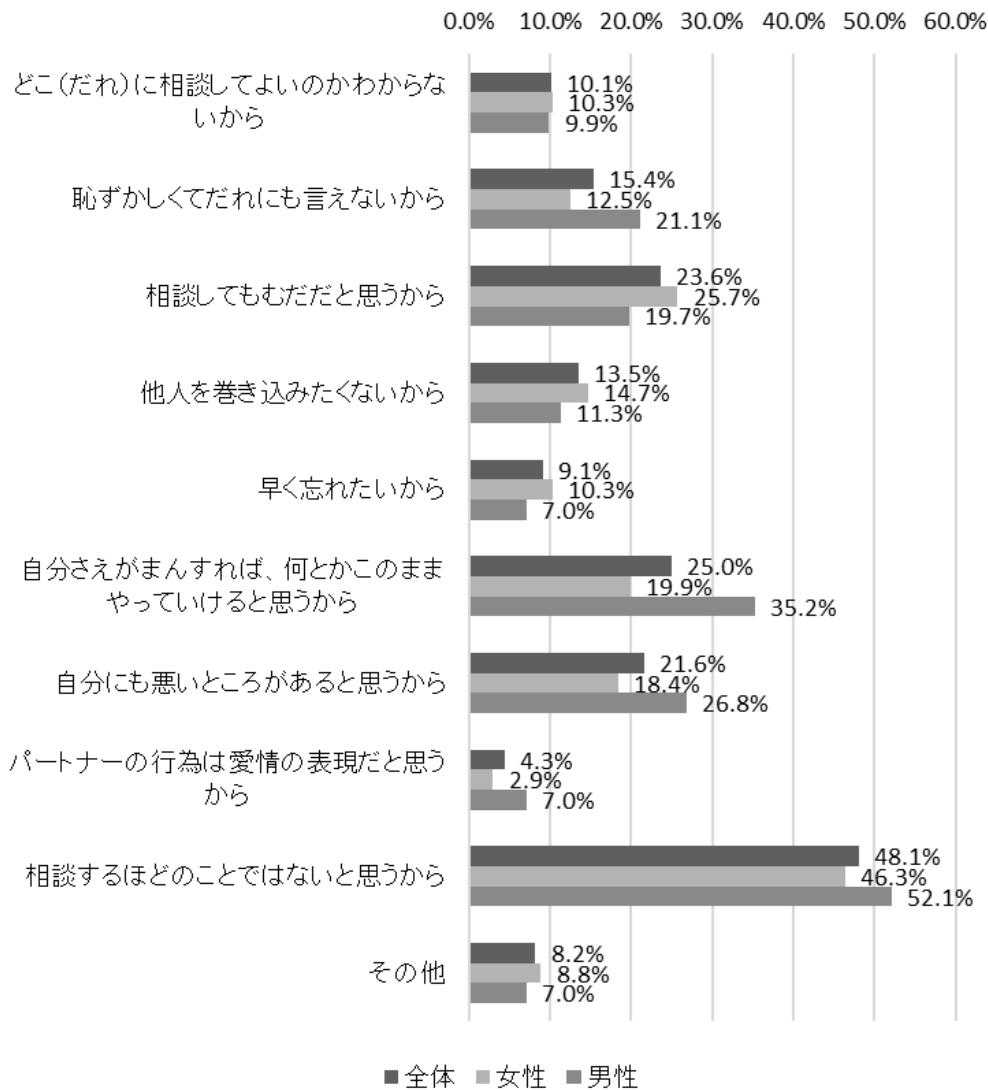
被害経験についての相談相手（問5／複数選択可）

- 被害経験時の相談について、女性は「知人・友人」（37.5%）、次いで「家族や親戚」（25.7%）、男性は「家族や親戚」（19.1%）「知人・友人」（16.9%）の順で高くなっています。
- 「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」（女性 40.1%、男性 68.5%）が女性約4割、男性6割以上となっており、被害を経験しても相談していない場合が多い傾向が示されました。



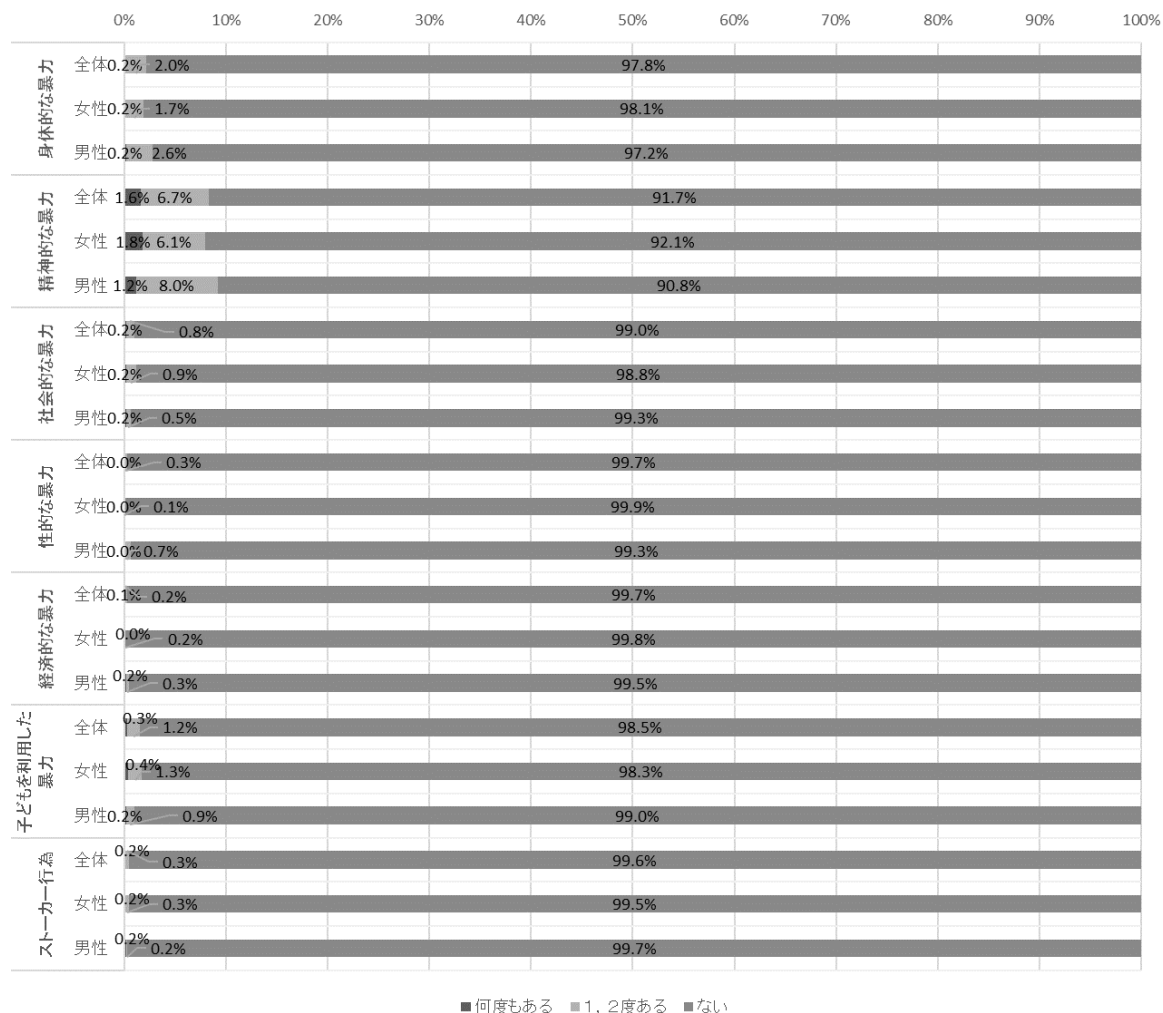
被害経験について相談しない理由（問6／複数選択可）

- 「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」場合の理由について、「相談するほどのことではないと思うから」が女性4割以上、男性5割以上となっています（女性46.3%、男性52.1%）。次いで女性は「相談してもむだだと思うから」（25.7%）、男性は「自分さえがまんすれば、何とかこのままやっていけると思うから」（35.2%）がそれぞれ高くなっています。



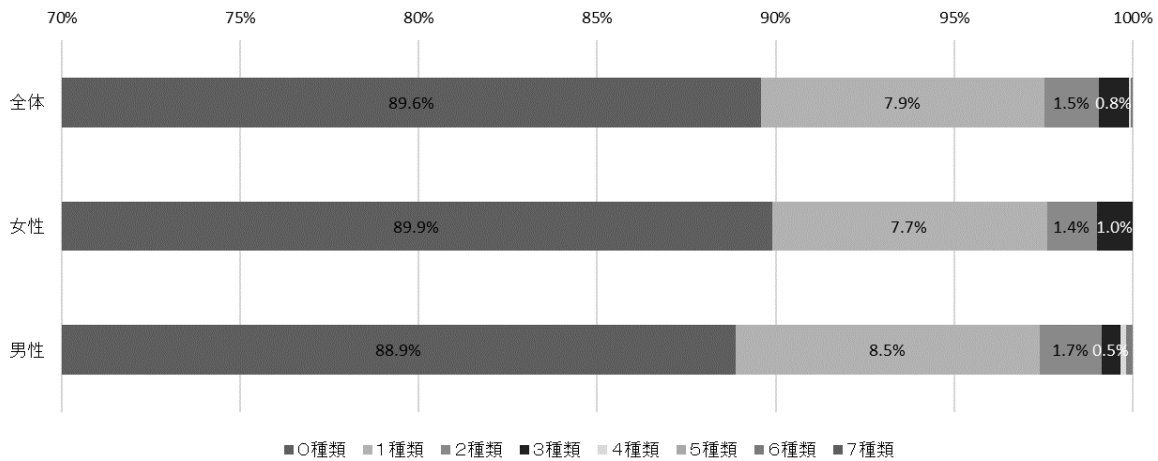
加害経験（問7／複数選択可）

●DV加害経験について、すべての項目で「ない」がほとんどとなっていますが、その中で「精神的な暴力」が「ある」（「何度もある」「1,2度ある」の合計）が最も高くなっています。



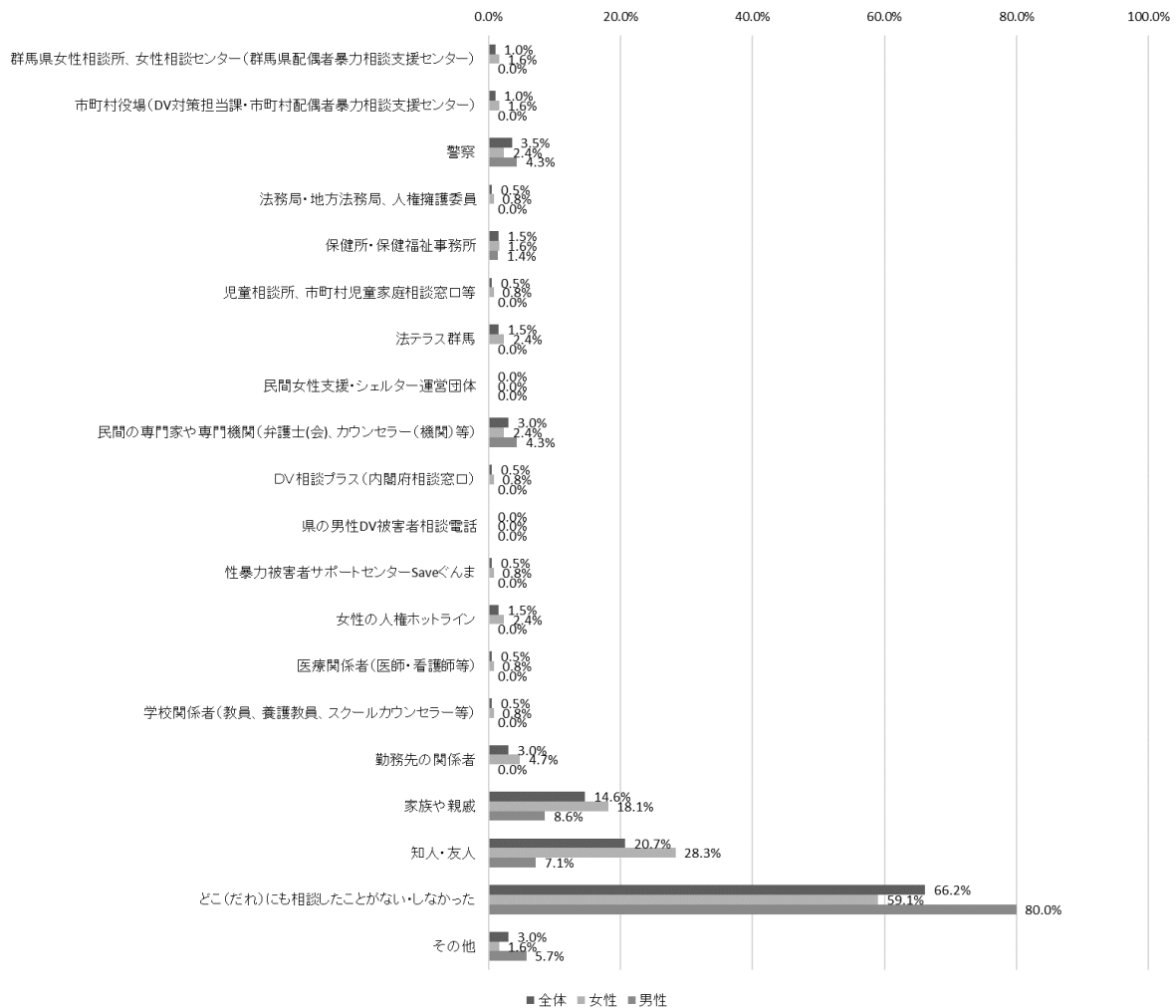
●加害経験について、女性は89.9%が加害経験がなかった。加害経験のある10.1%のうち、加害経験種類数は「1種類」が最も多く、7.9%であった。

●男性は、88.9%が被害を受けたことがない（0種類）であった。加害経験のある11.1%のうち、被害経験種類数は「1種類」が最も多く、8.5%であった。



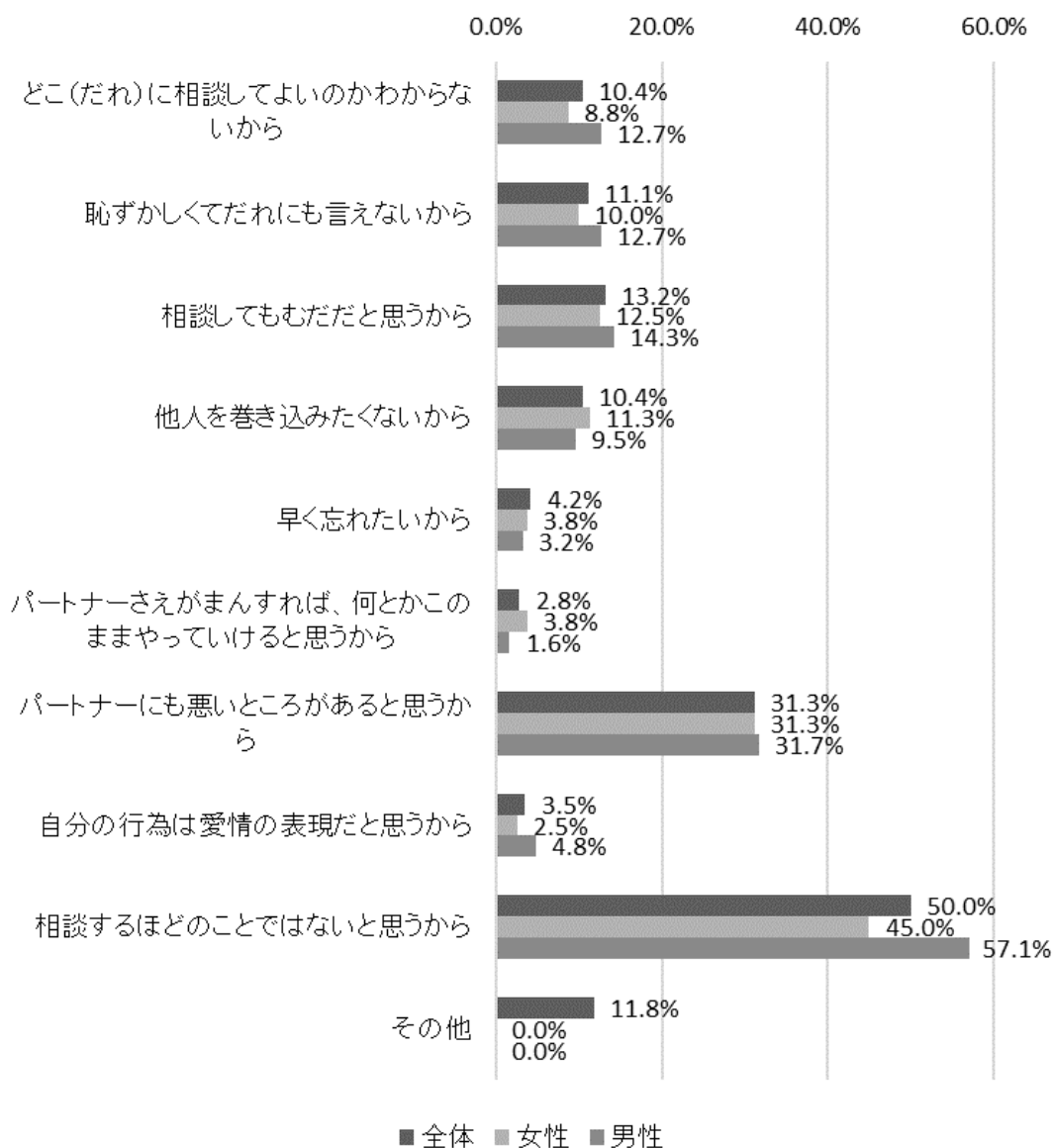
・加害経験についての相談相手（問 8／複数選択可）

- 加害経験時の相談について、女性は「知人・友人」(28.3%)、次いで「家族や親戚」(18.1%)、男性は「家族や親戚」(8.6%)「知人・友人」(7.1%)の順で高くなっています。
- 「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」は、女性 59.1%、男性 80.0%であり、加害を経験しても相談していない場合が多いことが示唆されました。



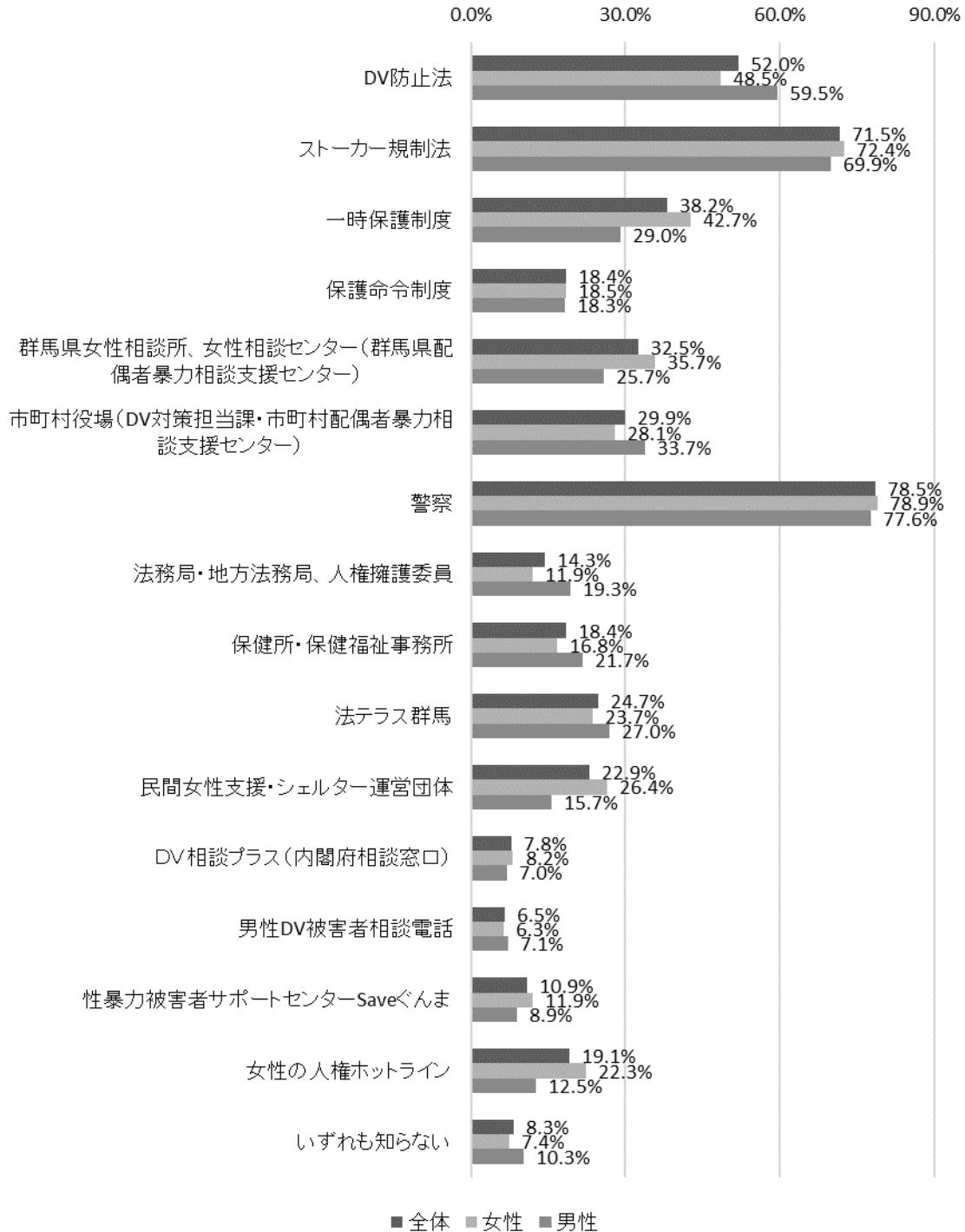
・加害経験について相談しない理由（問9／複数選択可）

●「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」場合の理由について、「相談するほどのことではないと思うから」（女性45.0%、男性57.1%）、次いで「パートナーにも悪いところがあると思うから」（女性31.3%、男性31.7%）が高くなっています。



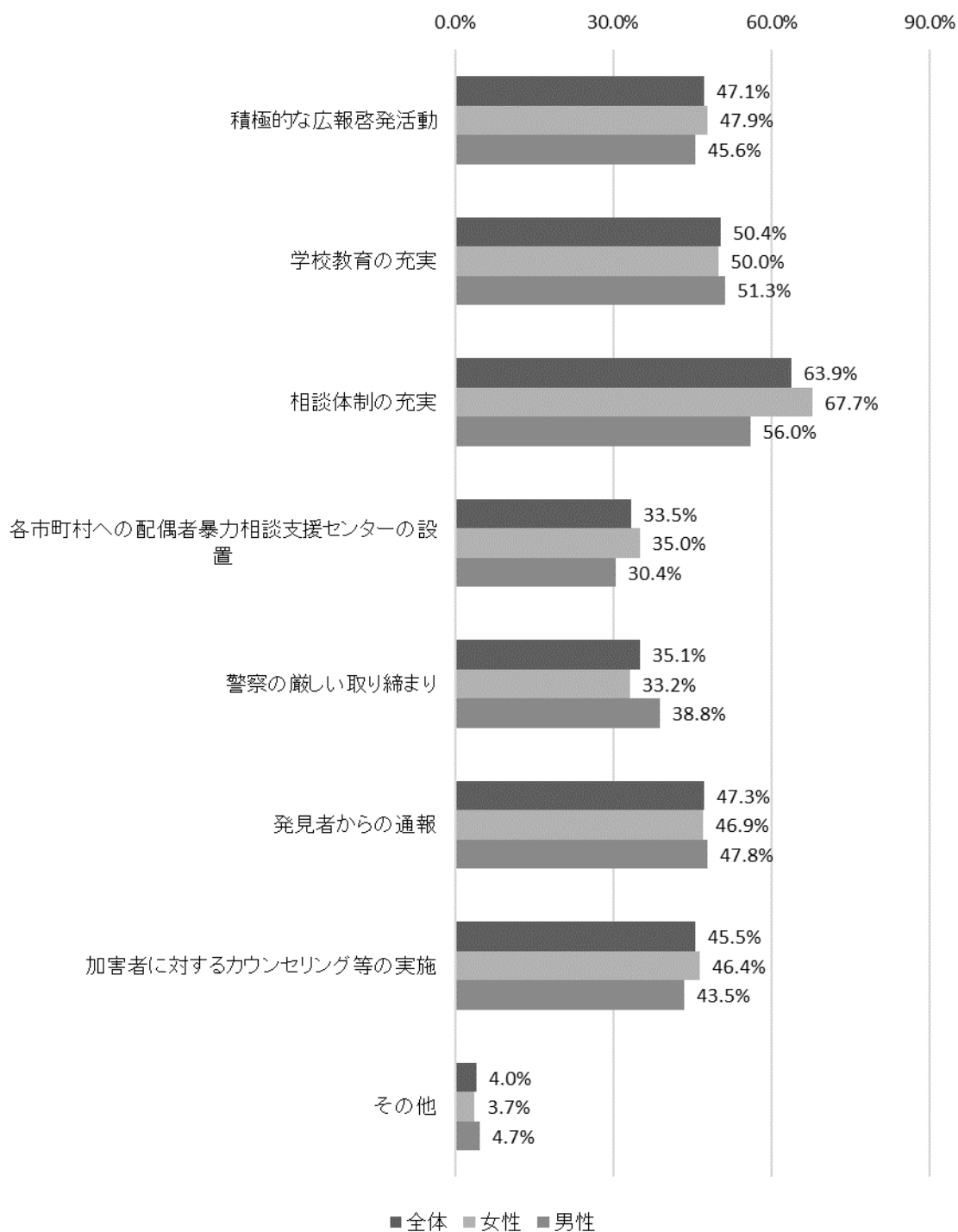
DV被害者支援制度等の認知度（問10／複数選択可）

- DV等の被害者支援のための制度や相談窓口などの認知度について、男女とも「警察」（女性78.9%、男性77.6%）、「ストーカー規制法」（女性72.4%、男性69.9%）、「DV防止法」（女性48.5%、男性59.5%）の順に高くなっています。
- 「いずれも知らない」（女性7.4%、男性10.3%）が男女とも約1割見られます。



暴力を防止し、よりよい関係を築いていくために必要なこと（問 11／複数選択可）

- 暴力を防止し、よりよい関係を築いていくために必要なことについて、男女とも「相談体制の充実」(女性 67.7%、男性 56.0%) が最も高く、次いで「学校教育の充実」(女性 50.0%、男性 51.3%) が高くなっています。



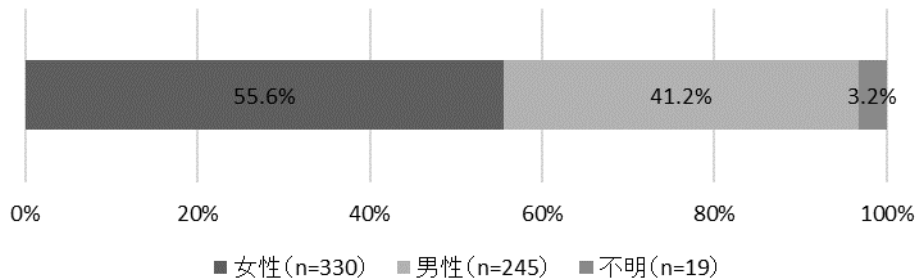
群馬県へのご意見・ご要望（問 12）

- ・ 通報しやすい環境整備を進めてほしい
- ・ 弱い立場の人が、安心して相談できる体制及び PR をお願いしたい
- ・ DV 被害者が、早い段階で自分が DV の被害を受けていると認識できるような仕組みだったり、相談しやすい環境づくりが進むことを願います。
- ・ DV 支援に関する情報講座等で多くの人達が知識や情報を得て生活出来るようにする事が必要かと思う。
- ・ DV とされる行為や言動などがどのようなものか、義務教育課程の現場から子供や若者に教える必要がある。
- ・ 子供への DV が無くなるよう子育て世代へのアプローチの強化を行ってほしいです。
- ・ 公共機関だけでなく、企業（職場等）にも相談できる環境を整備していかなければならないと思う。
- ・ 性教育を具体的にならう機会が少なかった大人にこそ性的同意や、避妊の知識が必要だと思えます。
- ・ DV センターの設置増加。支援団体への人件費増加。支援人材の育成。
- ・ シェルターの拡充、そのような施設があると言うことの広報。
- ・ DV が起きた後の対処と同時に、男女の賃金格差の是正や家事育児負担の偏りの是正等、DV が起きにくい環境作りも重要だと感じます。
- ・ DV を受けた側の精神面はもとより、する側の心の問題や、家庭環境等が背景にあると思うので、両者に支援が必要だと感じている。
- ・ 「女性からの DV もある」ことを世間には知らない方がそれなりにいるので、このことも社会に再度、示していただきたい。
- ・ 逃げたいが夫がいないと生計が成り立たない、自分の親からの目が痛くて逃げられないなどで我慢している人が多いのではないかと思います。DV について関係者だけでなく全国民が理解している必要があると日頃感じます。そうすれば相談しやすく、共感し助け合えるのではないかと思います。
- ・ 女性を下に見る世の中の風潮が変わらない限り DV はなくならない。
- ・ ジェンダー平等意識を多くの県民が持つことが大切です。男性の中には、「自分が食わせてやっている」など人権意識の低い人がまだ多くいます。教育が大切ですが、群馬県は公立高校が未だ男女別学が全国一位です。まずは別学をなくしたいと思えます。「男は男らしく」などという校風は DV を生みやすいです。
- ・ DV 被害の話聞いたことがあるが、被害者自身が DV を許容している（加害者への心理的依存が継続している）と思ったことがある。異常な状態が常態化して、自身が異常な行為を受けているという感覚が麻痺してしまっている。ここを被害者に気付かせる何らかの手立てが必要だと思う。
- ・ DV 被害者が保護されても、様々な制約によってその後の生活がスムーズに進んでいかない。各種手続きの複雑化や行政によって対応の違いがあり不都合を感じる人がたくさんある。
- ・ DV の被害者救済のため、警察による介入や裁判所による保護命令など、厳しい措置を素早く実行できる体制づくりが必要と感じます。
- ・ 加害者から DV 被害者を徹底的に守る方法を検討して欲しい。被害者が危険を感じることなく安全に暮らし、仕事ができる環境の整備が必要と感じている。

1. 回答者の属性

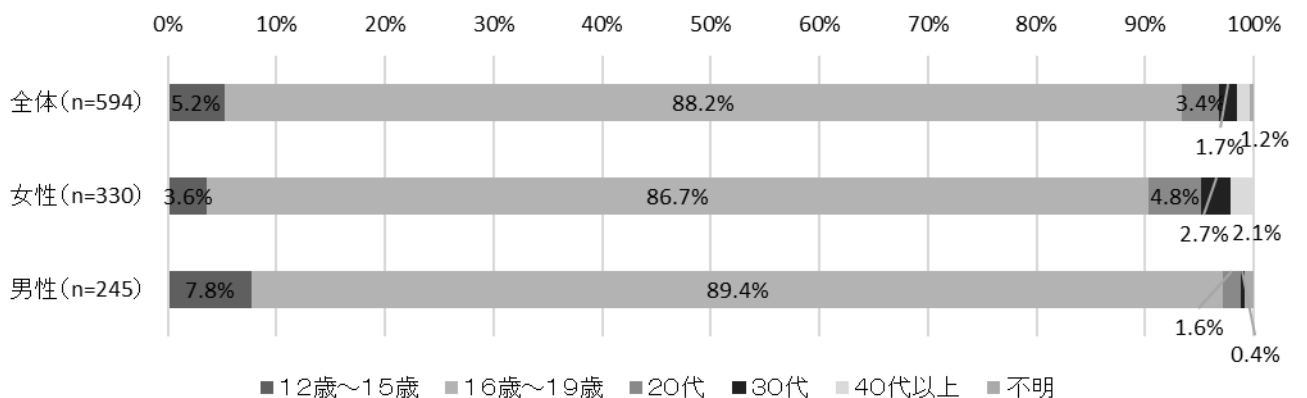
(1) 性別

●性別は、女性 330 人 (55.6%)、男性 245 人 (41.2%)、不明 19 人 (3.2%) となっています。



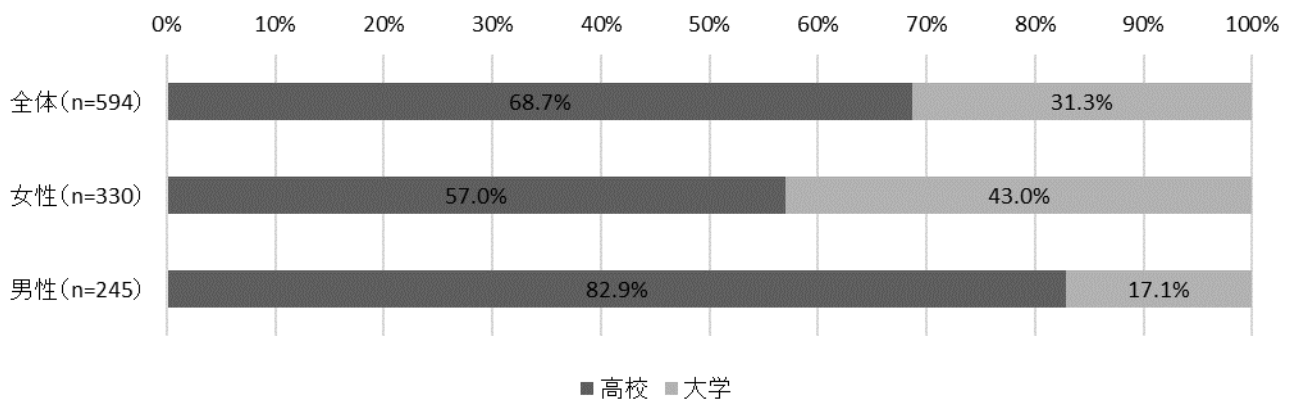
(2) 年代

●年代は、12～15 歳 31 人 (5.2%)、16～19 歳 524 人 (88.2%)、20 歳以上 37 人 (6.2%) となっています。



(3) 学校

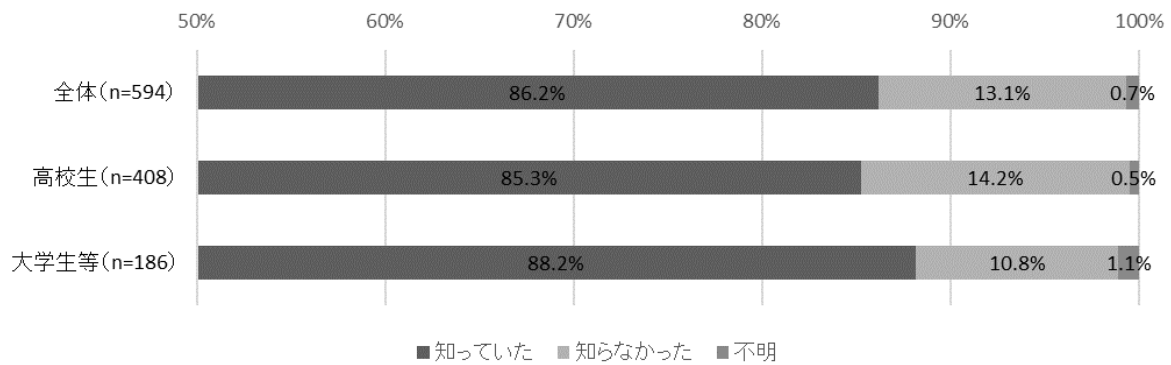
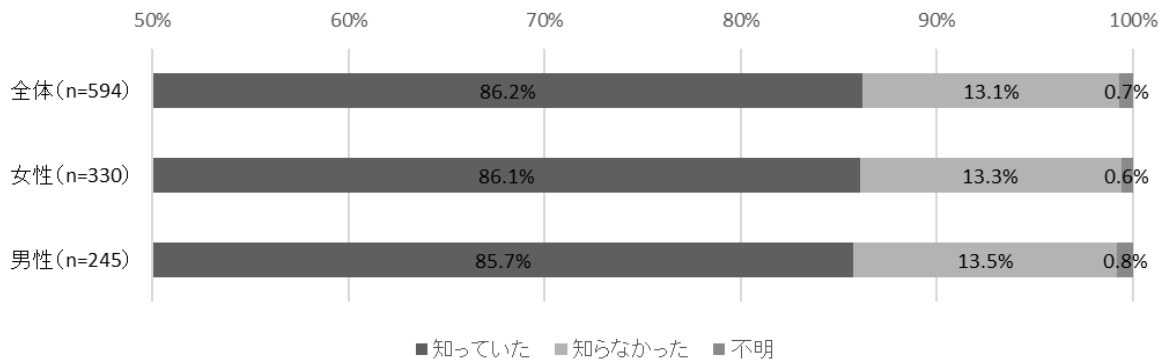
●学校は、高校生 408 人 (68.7%)、大学生 186 人 (31.3%) となっています。



2. 調査結果について

デートDVの認知度（問3）

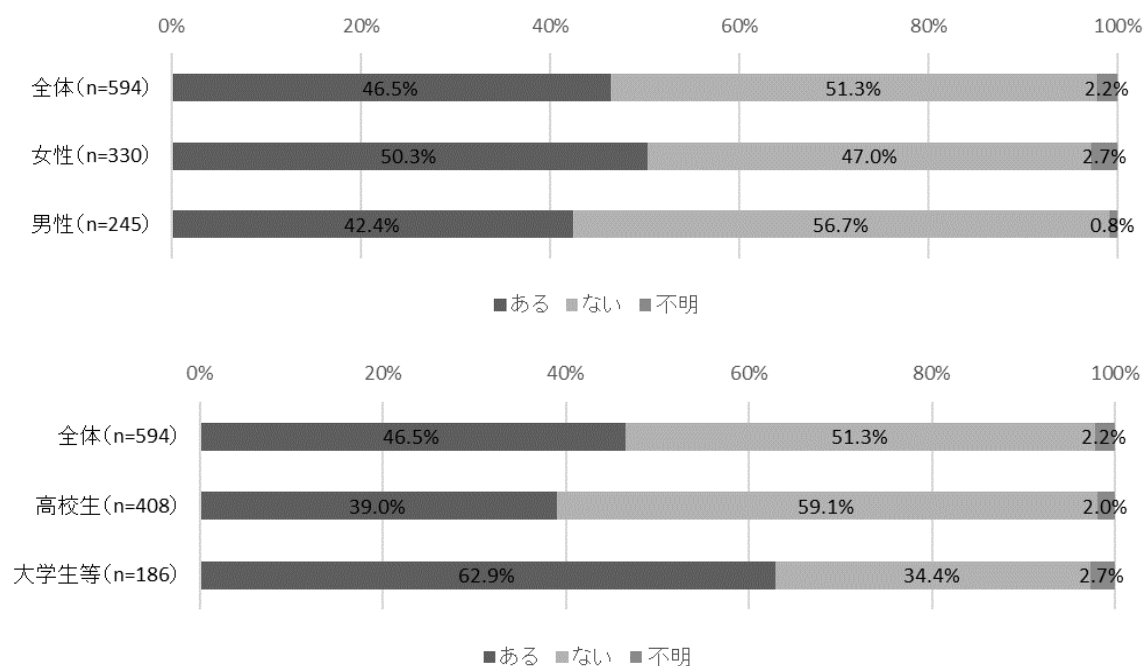
- デートDVのことを「知っていた」と答えた人は、全体の8割以上（86.2%）となっています。
- 性別や学校（年齢）による差は見られませんでした。



問4 デートDVについて理解できたか（講座を理解できたかどうかの設問のため省略）

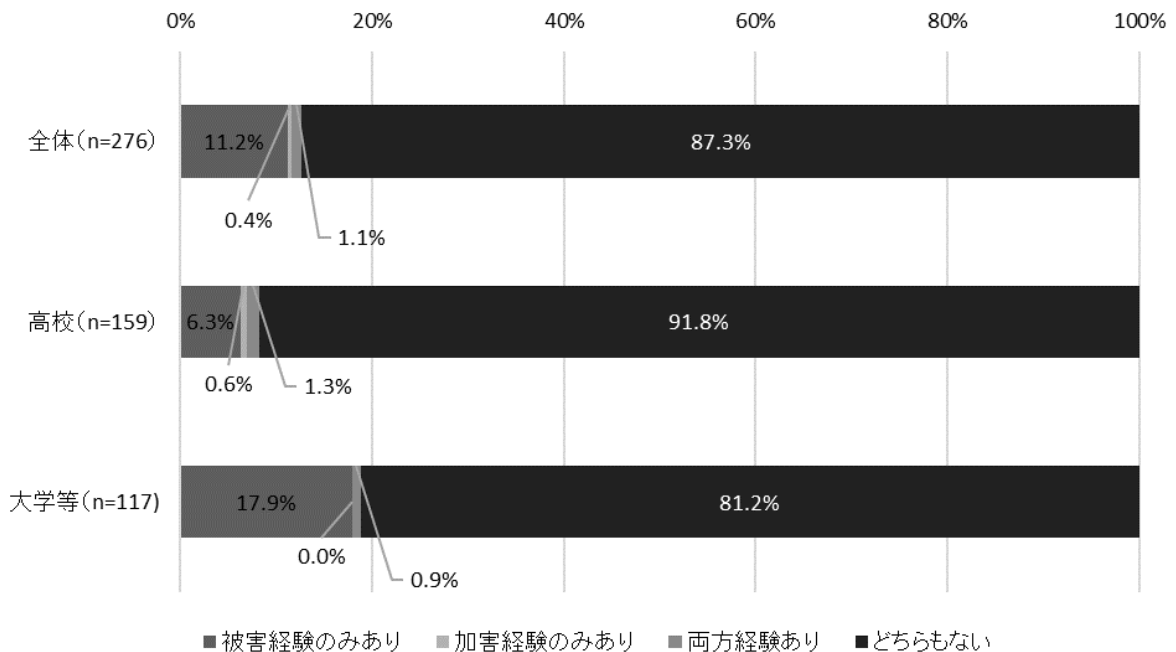
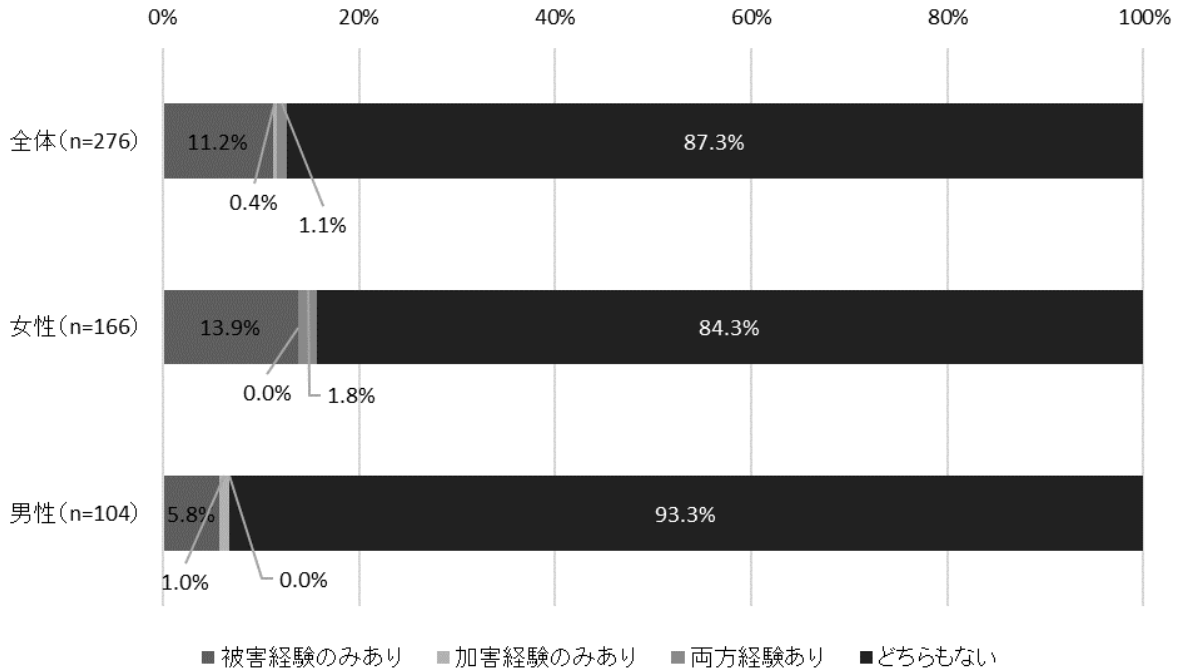
交際経験（問5）

- 交際経験があると答えた人は、全体の約4割（46.5%）となっています。
- 性別で見ると、男性より女性の方が交際経験がある割合が高くなっています。（女性 50.3%、男性 42.4%）
- 学校別で見ると、高校生では約4割（39.0%）、大学生では6割以上（62.9%）が「交際経験がある」と答えています。



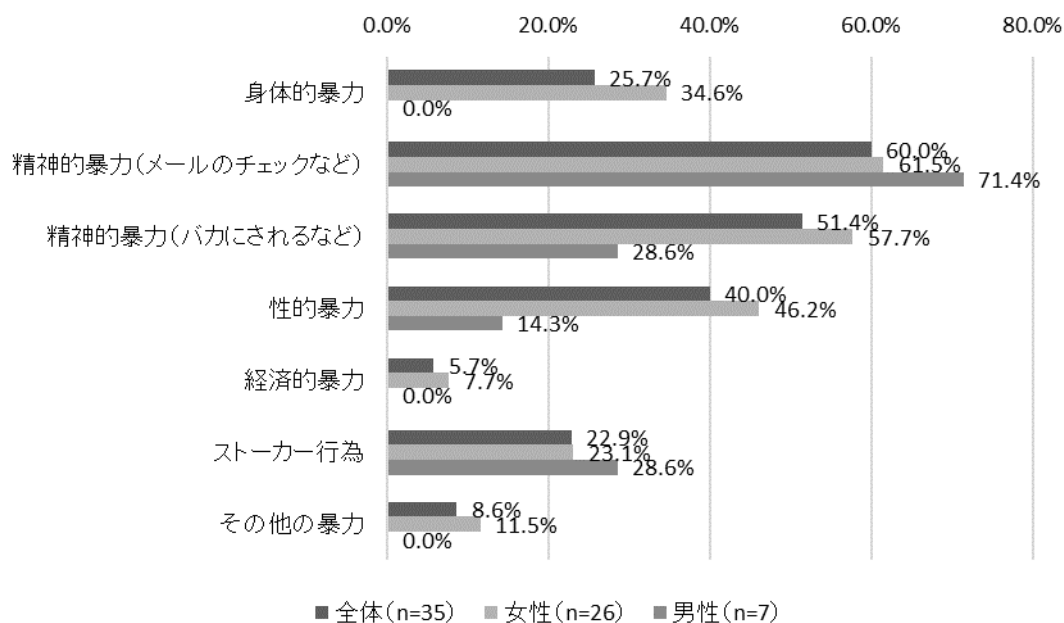
デートDVの経験（問6）

- 交際経験があると答えた人のうち、デートDVの被害経験のある人（被害経験のみあり＋両方経験あり）は全体の約1割程度（12.3%）となっています。
- 性別で見ると、男性より女性の方が被害経験の割合が高く（女性15.7%、男性5.8%）、学校別で見ると、高校生より大学生の方が被害経験の割合が高くなっています（大学生18.8%、高校生7.6%）。



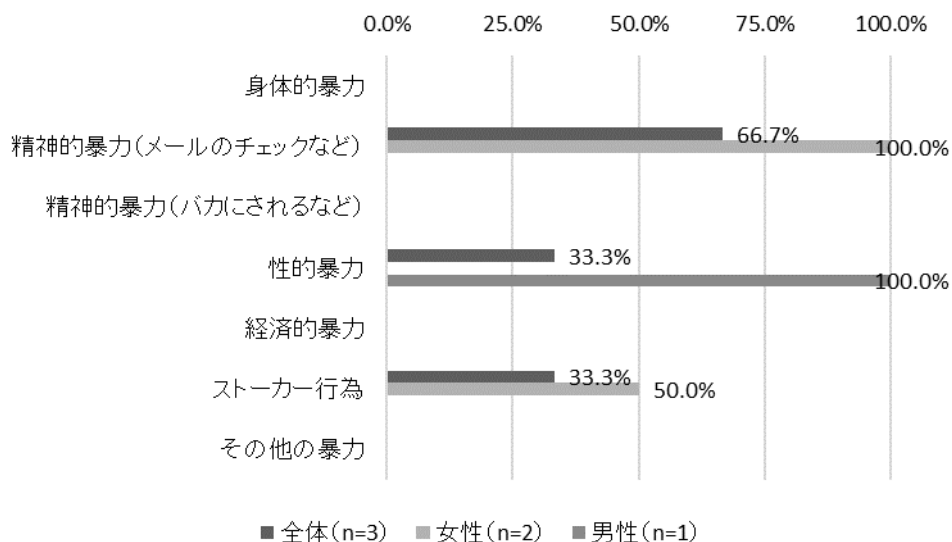
どのようなデートDVを受けていたか（問7／複数選択可）

- 全体では「精神的な暴力（メールのチェックなど）」（60.0%）が最も高く、次いで「精神的な暴力（バカにされるなど）」（51.4%）、「性的暴力」（40.0%）となっています。



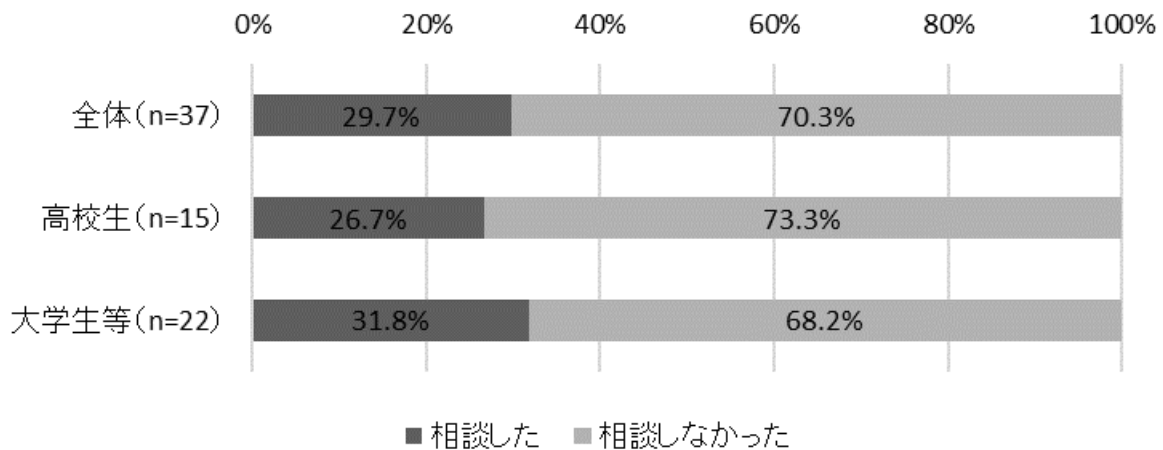
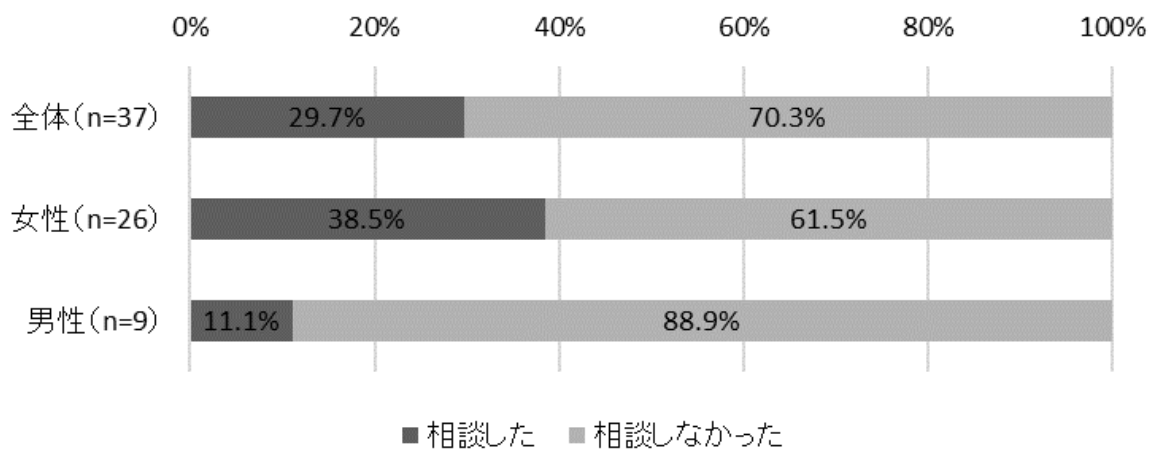
どのようなデートDVをしていたか（問8／複数選択可）

- 回答者数が少なく、傾向を述べることは難しい。



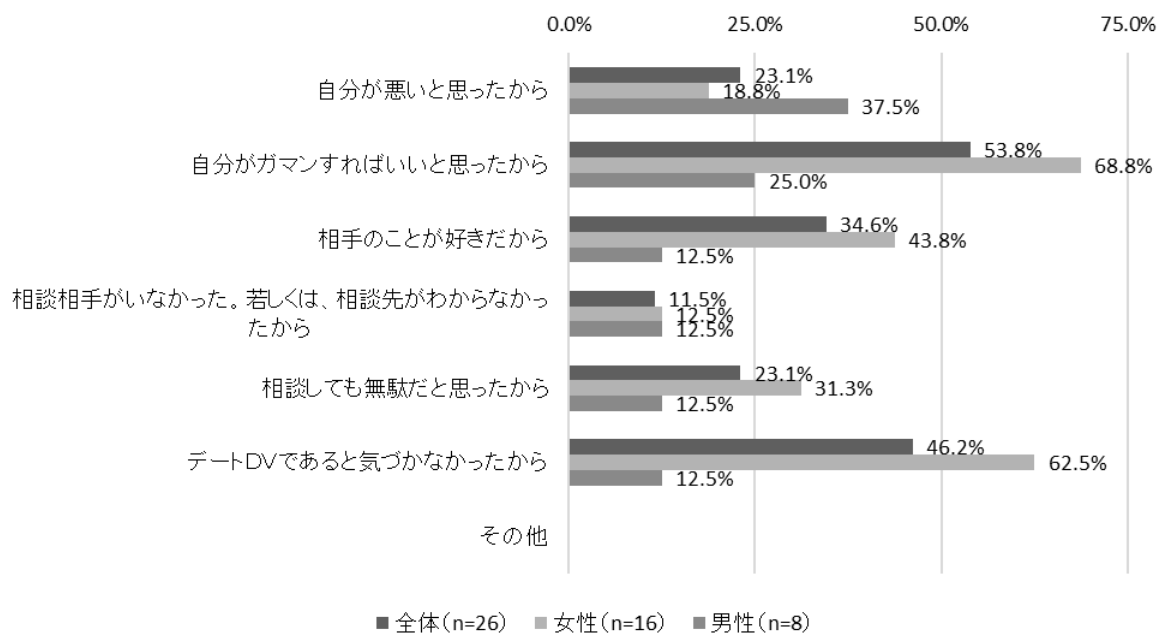
デートDVを受けたとき、相談したか（問9）

- デートDVを受けたとき、誰（どこ）かに相談したと答えた人は約3割（29.7%）となっています。
- 相談先としては、友達と回答した人が10名のほか、親、きょうだい、先生、自殺対策コールセンターについて、各1名の回答がありました。
- 性別で見ると、女性より男性の方が、相談をした割合が高くなっています。（女性38.5%、男性11.1%）
- 学校別で見ると、高校生も大学生も約3割（高校生26.7%、大学生31.8%）が「相談した」と答えています。



デートDVを受けたとき、相談しなかった理由（問 10／複数選択可）

- 全体では「自分がガマンすればいいと思ったから」（53.8%）が最も高く、次いで「デートDVであると気づけなかったから」（46.2%）となっています。
- 女性は「自分がガマンすればいいと思ったから」（68.8%）が最も高く、次いで「デートDVであると気づけなかったから」（62.5%）が高かった。男性は「自分が悪いと思ったから」（37.5%）が最も高く、次いで「自分がガマンすればいいと思ったから」（25.0%）となっています。



講座を受けて、どのように感じたか（問 11）

- ・自分が被害者にも加害者にもなるかもしれないと思ったけれど、自分をしっかりとって、DV とはどこからなのかをよく知って、お互いがお互いを大切に思えるそんざいとなるようにしたいと思いました。
- ・デート DV は身体的暴力、性的暴力、経済的暴力、ストーカーなどいろいろなことがデート DV がいとうすると分かりました。女だけではなく男も被害にあっているのを気をつけようと思いました。
- ・DV・デート DV が起きているのは意外と多いんだなと思いました。自分にはあまり関係がないと思っていたけど、いつ誰が加害者になるかわからないので常に自分の意思を持っていることが大切だと感じました。加害者は男性だけではなく、女性が DV することも多いと知ってびっくりしました。暴力は身体的なことだけでなく、精神的な暴力もあるとわかりました。
- ・女性だけが受けていると思っていたので男性も被害にあっていることを知りおどろいた。
- ・けんかは自分の意思をしっかりと伝える、DV は自分の意思関係なくされてしまうことだと分かった。
- ・自分も気をつけたいし、周りが被害にあっていたら助けてあげたいと思いました。
- ・誰にでも起こる問題の事で、自分も気をつけなければなと思いました。他人事でないと分かりました。
- ・今はジェンダーレスな時代ですが、どうしても男女で区別してしまう場面が沢山あるので、それを一人一人が意識して男女格差をなくすことで、DV やデート DV も少しは減るのではないかなと感じました。
- ・自分が加害者にも被害者にもなり得るということ、いつそうなってもおかしくないということも踏まえて、他人のこととして考えず自分のこととして考えようと思った。これから人と付き合っていくなかで対等でお互いを尊重し合える関係を目指し、そのためにも他人に自分の価値観を押しつけすぎないよう心がけたいと思った。
- ・今回の講座を受けて、男と女の区別は必要だと思うけれど、お互いの事を思ってしっかりとと言える関係になりたいと思いました。男と女はこうあるべきとか、カップルはこうあるべきとか、こんなのは必要ないと思いました。男は男らしくいたほうがいい、女は女らしくいたほうがいいといった事は考えた人が受け取ってれば良いんだと分かりました。DV やデート DV は犯罪・人権侵害になると分かりました。私には関係ないとかあるといった考えは捨てて、受け止めていけるようになりたいと思いました。暴力と間違えないように、お互いが対等な関係がどうかを見分けて、良い関係になっていけたらと思いました。被害を受けた人と加害者になった人の考えは違っても平等になれるように、これからも意識していきたいです。
- ・付き合うことは相手に独占されること、そくばくされることという考え方はすごく勝手だし、嫌われるのが怖くて従ってしまうと思った。
- ・相手のことも、自分のことも大切にできる人と付き合いたいと思った。加害者には、自分が正しい、相手がまちがっている、暴力は相手のせいなどの被害者のことをまったく考えない態度や思想だということが分かった。
- ・被害者には3つの要素があり、優しく思いやり深いこと、責任感が強いこと、比較的おとなしいなどの要素があるのは驚いた。
- ・今回はデート DV について詳しく知ることが出来た。身の回りではあまり聞いたことがなく馴染みのない内容ではあったが、具体的なシチュエーションを交えた説明がとても分か

りやすく状況を掴みやすかった。人に怪我を負わせる、物を傷つけるなど明らかな暴力にはもちろんすぐに気づくし絶対にしようとは思わないが、精神的な部分に関しては同じ事柄でも人によって感じ方が大きく変わってしまうという点でもしかしたら自分も加害者になってしまうのではとても不安になった。今交際してもらっているパートナーとのコミュニケーションを大切にし、互いに思い遣って支え合えるように努力したいと改めて思った。

- デート DV なんて言葉は自分には縁がないことだと思っていたけど、不安感から相手を支配する・それを受け入れる行為は友人関係でもあるかもしれないと思った。また、女性は被害者になりやすいというイメージがあったが、今回の講師の先生の話聞いて女性であっても加害者の立場になることが多いと知って少し驚くと同時に気を付けたいと思った。
- 知らぬ間に相手を傷つけて後戻りができない事態になってしまう前に、対話しておくことが大切だと感じた。
- 暴力は人を思い通りにするのに効果的という言葉が印象に残った。人を支配する形は様々であり、身近で起きているということに気づくことができた。また、暴力には身体・精神・経済・デジタル的暴力といった様々な形があることも知ることができた。
- デート DV が思っていたより身近な問題で驚きました。デート DV がジェンダー差別からくるものだと学びました。もし友達がデート DV で困っていたら、友達の意志を尊重し、「いつでも話を聞くよ」という姿勢を示したいと思います。
- 身近な映画や音楽、ドラマ、漫画などにデート DV を感じさせるような表現やジェンダーを感じさせるような表現があふれているなと思いました。
- 自分も無意気に「らしさ」を決めつけてしまっているところがあると思ったので、その認識をもって生活したいです。
- 自分が相手を傷つけないように、自分ごととして考えたいです。
- けんかと DV の違いを学ぶことができた。けんかというのは、言いたいことがいえるし、逃げ場があるのに対して DV は逃げ場がない。DV は支配することであるので、手を出すことなどせず相手とかかわっていきたい。講義ありがとうございました。
- 若い頃に、友人関係をしばられたり、友達と遊ぶのも報告が必要であったり、毎日当たり前の様に迎えに来て彼の家へ行きすぎずという交際をしていた事があるが、その頃は「付き合い合えば当たり前の事」と思っていて、年を重ねてからおかしかった事に気付いたのだが、講座を受けてそうだったんだと納得した。
- 平等で男女が対等となる環境、ジェンダーの差別をなくしていく事が大切だと感じた。
- DV を受けている渦中にいる時は“この人には私が必要なんだから”“この人に合わせられるのは私しか居ないよな・・・”という気持ちが大きかったが、勇気を持って別れを告げた。それには周りの人の説得があったから勇気をもてました。人に相談すること、客観的に見た状態を優しく教えてあげること、DV を受けている人の気持ちが変わるまで見守ることが大事だと思いました。自分を守るのは自分だという言葉はその通りだと思いました。
- 学校の制服についても女らしさ、男らしさの偏見の一つだと思った。女だから男を立てろ、四大は必要ないと親に言われてきたので、娘には絶対に言わない、ジェンダーレスで育てていきたいと考えている。ただ、女として自分の身体を守る方法は教えるようにしている。力ではどうしても勝てないから、犯罪とかが怖いと考えている。
- 今回の講座を受けて、私と彼はお互いを尊重できていると思いました。一緒に食事を作ったり、男性だから、女性だからにしばられていない自分が得意なこと、お互いに出来ること出来ないことを補うことができていると思いました。私達は、“ありがとう”感謝を伝えることを大切にしています。車をだし運転してもらおうことがあたりまえ、すべてがあたり

まえにならないように、運転してくれてありがとう、むかえにきてくれてありがとう、ごめんねより、ありがとうが多くなるように。思っていることを伝える2人で話し合うことも大切にしています。

- 今まで暴力と認識していなかった事も暴力にあたるという事を知った。また、自分が DV を受けていると思っていない人や、認めたくないという人もいると思うので、周囲の人が気づいた時に声を掛けることも重要だと感じた。
- カップルという関係は、支配関係におちいりやすいということを学んだ。男女は平等であり、お互いに尊重し合える関係を築くことが大切であると感じた。